

2025 年度事業計画

1. 調査研究の推進

(1) D-Call Net の研究（継続）

新車搭載の車載機型（第1種）D-Call Net については、交通弱者（歩行者、自転車乗員）を対象とした次世代 D-Call Net に関する調査研究、ドクターカーへの展開、救命救急に係わる消防・病院関係者への広報啓発などを継続する。

使用過程車にも搭載可能な画像活用型（第2種）D-Call Net については、2023 年度から開始したドクターヘリ・ドクターカー基地病院・消防本部における試験運用の成果を踏まえて、2025 年度以降に全国における本運用の開始を目指す。

D-Call Net の普及のため、HEM-Net のホームページに D-Call Net 専用のバナーを設ける。また、D-Call Net の効果検証のため、ドクターヘリとドクターカーにおける利用状況を医療レジストリーに項目追加するよう関係医学会への働きかけを行う。

(2) HEM-Net シンポジウムの開催

ドクターヘリの安全運用などに関する課題や、広く病院前救護・医療に関する課題等から題材を選び、HEM-Net シンポジウムを開催し、今後のドクターヘリの質的向上に資するような議論を行う。

(3) ドクターヘリ夜間運航に関する調査・研究（継続）

昨年度実施したドイツ HEMS の夜間運航に係る実態調査に協力いただいた DRF 所属の Dr. Johannes Strobel を日本航空医療学会と連携して招聘し、ドイツ HEMS の 24 時間運航に関して講演会を開催することとしたい。併せて、当該実態調査に際し Dr. Johannes Strobel を紹介いただいた大森一彦順天堂大学准教授に、ドイツ・デンマーク HEMS の夜間運航を実体験していただき、その知見を同講演会にて発表していただくこととしたい。

(4) ドクターヘリの連携・補完手段としてのドクターカー、ドローン及び空飛ぶクルマの調査研究（継続）

「ドクターヘリの連携・補完手段」として位置付けることができるドクターカー、ドローン、空飛ぶクルマについて、これらに関する調査研究を関係団体と連携して継続して行っていく。それぞれの計画は以下のとおりである。

① ドローンとドクターヘリのコラボレーション（継続）

災害時や予期しない緊急時に、ドローンがドクターヘリ運航や災害時の広域運用などに際し、様々な側面から支える可能性は大きい。

本年度も、日本航空医療学会の新型航空機委員会と共同して、実践的な実証実験を計画し、災害・緊急時のドクターヘリの安全な着陸場所の確保、医療資材・薬剤などの搬送をサポートする研究と実証実験を進めたい。

② 「空飛ぶクルマ」による医師搬送システム（継続）

「空飛ぶクルマ」による医師搬送システム検討コンソーシアム（NEXTAA）」の活動へは、「医療効果 WG」及び「運用体制 WG」にそれぞれ委員を派遣している。同コンソーシアムの取組み目標は、「2025 年の大阪万博における会場内での全域運用（デモフライト、実証運航、医療待機）」の実現である。本年はいよいよ大阪万博が開催される。「空飛ぶクルマ」に関しては当初計画よりトーンダウンしてデモフライトの実施にとどまる可能性が高いが、新技術の黎明期としてモニターしていくこととする。

また、昨年 3 月に「空飛ぶクルマ」に関する航空法上のガイドライン（機体の安全基準、操縦者の資格要件、整備に関わる要件、離着陸場の基準、飛行様式の基準等）が公表された。

現状では大阪万博におけるデモフライトの実現を目指した基準であるが、将来の機体開発の進捗（及び海外当局との調整）にあわせて、実用飛行を実現するための基準として進化していくことが期待でき、今後の動向を注視する。

③ 「国ドクターカー協議会」との連携によるドクターカーの調査研究（継続）

新たに策定された各都道府県の第 8 次医療計画におけるドクターカーの位置づけについて実態を把握し、問題点を摘出するとともに、「令和 5 年度ドクターカーの運用事例等に関する調査研究事業報告書」によって明らかとなった問題点と合わせ、「全国ドクターカー協議会」と連携してその解決策を検討し、必要に応じ、政治的な解決を図るべく活動することとしたい。

（5）病院前救護・医療に係る調査研究支援事業

ドクターヘリの効果的・効率的な運用に加え、ドクターヘリが利用できない場合等の病院前救護・医療に関する調査研究を進めるための支援事業を継続する。

具体的には、ドクターヘリ基地病院等が行う病院前救護・医療に係る調査研究のための費用を上限 100 万円以内で HEM-Net が助成することとし、2025 年度は 4 団体を目途に募集を行う。

（6）海外調査

海外の先進国では、HEMS（ドクターヘリ）は、夜間運航や計器飛行を行っているケースは少なくない。本邦でも、夜間運航への期待が高まっているが、その実現のためにも安全な運航を支える様々な取り組みや、最新のテクノロジーを海外で直に学ぶことは大変に重要である。本年度は関係各所の協力を得ながら海外視察を行う予定である。

(7) ドクターヘリの安全運用に関する合同委員会

昨年度 日本航空医療学会と合同で設置した「ドクターヘリ安全運用に関する合同委員会（委員長：猪口貞樹 日本航空医療学会理事長・副委員長：伊藤隼也 HEM-Net 理事）」を引き続き開催し、ドクターヘリの安全運用に関する提言を行うとともに、その提言の実現のため、関係各省庁への働きかけを行う。

2. 情報の発信

(1) HEM-Net プラザの発刊

「HEM-Net プラザ」は、今年度も引き続き、時局性の高いテーマを選んで問題提起ができるよう配慮しながら、年間4号を目途に発刊を続けていくこととしたい。

当面、昨年度からの持ち越しとなった第22号として「第8次医療計画について」を本年2月に発刊し、今後は「夜間運航」・「D-Call Net の奏功事例」・「海外調査報告」などをテーマに予定している。

(2) 広報宣伝活動等の展開

関係団体、医療関係者等と連携・協力して、ドクターヘリの質的向上、D-Call Netの普及・啓蒙などに関する「研究会」・「セミナー」・「講演会」などを主催・共催し、またはそれに積極的に参加するとともに、新聞・機関誌等に寄稿するほか、メディアの取材にも対応していきたい。また、SNSを活用した広報活動も検討する。

3. ネットワークの拡大

(1) 賛助会員・寄付者の拡大

引き続き、賛助会員・寄付者の拡大に努める。また、SNSの活用を検討したい。

(2) 関係団体との連携の強化

ドクターヘリ推進議員連盟の総会に出席し、HEM-Netとしての活動内容や課題を報告することとし、課題等についてはその解決のための支援をいただくことにする。

日本航空医療学会、ドクターヘリ連絡調整協議会（会長：猪口貞樹）、ドクターヘリ連絡調整委員会（委員長：北村伸哉）にそれぞれ出席し、HEM-Netの活動を報告するとともに必要な調整を行うこととする。

ドクターカーについては、HEM-Netも会員である全国ドクターカー協議会に出席し、今後のドクターカーの活用方策等についての議論等の情報を得るとともに、D-Call Net 通報の利用を希望する病院を募集するなど、HEM-Netとしても多面的に協力することとする。

ドローンについては、HDC（日本ドローンコンソーシアム）のフォーラム等に出席し、情報等を得るとともに、その活用をさらに推進するために情報発信することとする。

空飛ぶクルマについては、NEXTAA（空飛ぶクルマによる医療搬送システム検討コンソーシアム）の総会、委員会、WG等に出席し、情報を得るとともに情報発信することとする。